

施策の目的

対象

- A) 市内で起業を希望する人
- B) 市内で就労を希望する人
- C) 市内で就労している人

意図

- A) 市内で起業できる
- B) 市内で就労できる
- C) 市内で働き続ける

施策の基本方針

- 人口の社会増に向け、若者やU I ターン者に向けた起業・就業支援を強化します。
- 求人・求職者のマッチングを推進します。
- 「働き方改革」の推進に向け、働きやすい環境づくりの啓発に取り組みます。

施策の目標

成果指標	現状値 (H30)	目標値 (R6)
起業数	18 件	20 件
新規高卒就職希望者（市内3校）の市内への就職率※ <sup>50</sup>	42.6%	50.0%
新規求職申込後、就労した者のうち雲南圏域への就職率	63.1%	65.0%



起業や第2創業に向けたセミナー



外国人材活用に関するセミナー

## 基本事業

起業・就業支援の充実

### 起業支援の促進

- 対象** 起業希望者 **意図** 市内で起業できる。
- 方針** ●商工会等の支援機関や金融機関との連携により、起業希望者への相談対応や起業後のフォローを行うなど、起業支援の充実を図ります。

### 求職者に対する就労支援

- 対象** 求職者 **意図** 市内で就労できる。
- 方針** ●企業の求人情報の把握に努め、UIターン者をはじめとする求職者に対する情報提供を推進し、市内就労につなげます。  
●ハローワークとの連携による無料職業紹介や雲南雇用対策協議会による就職促進の取組などにより、高卒者をはじめとする新規就労者の雇用確保を推進します。

### 良好な就労環境の啓発推進

- 対象** 求職者 **意図** 良好な就労環境で就労する。
- 方針** ●ライフステージに応じた柔軟な働き方が選択でき、女性・若者・高齢者・外国人材など多様な人材が活躍しやすい環境づくりに向けた啓発活動を推進します。

## 役割分担

市民（住民、事業所、地域、団体）	行政（市、県、国）
<ul style="list-style-type: none"> <li>●起業や就業に必要な知識の習得、情報収集に努めます。</li> <li>●事業所は、働き方改革に取り組むとともに、地元採用及び雇用の拡大に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●雲南公共職業安定所（ハローワーク雲南）をはじめ、関係機関、雲南市無料職業紹介所等による求人・求職情報の提供を行うとともに、UIターン就職や若い世代の回帰・定住の促進を図ります。</li> <li>●起業や就業に必要な知識の習得、情報提供などの支援を行います。</li> <li>●働き方改革の推進に向けた啓発活動を行います。</li> </ul>

## これまでの振り返り総括

- 雲南雇用対策協議会においてハローワーク雲南と連携し、管内企業の視察や企業情報の提供などの支援に努めています。
- 雲南雇用対策協議会と連携し、新規高卒者の就職内定者研修、新入社員・中堅社員研修等を行っています。
- 雲南市無料職業紹介所では、求職者に対して求人の情報提供や斡旋等を行っています。
- UIターン者に対し、職業紹介や入社支度金制度による支援を行いました。
- 大学卒業後に市内企業へ就職してもらうため、進学希望の高校生に地元企業ガイダンスを実施しています。
- 経営者を対象とした人材育成に関する研修を行うほか、キャリアアップ助成金制度等の啓発活動を行いました。
- 起業や第2創業に向けた個別相談・セミナー等を行いました。
- 企業の業況や雇用状況を把握するためアンケートを実施しました。
- 人材確保の手段の一つとして、外国人材活用に関するセミナーを開催しました。
- SWS西日本(株)島根工場がH29年9月末をもって閉鎖し106名の離職者が発生したことから、島根県やハローワークなどの関係機関で構成する「SWS西日本(株)島根工場離職者等支援対策本部」を立ち上げ再就職支援や生活関連の相談などを行いました。

※50 就職率…求職者数に対する就職者数の割合。

施策の目的

**対象** 商工業事業所（者）

**意図** 新分野進出、新商品開発をする。

施策の基本方針

- 地域資源を活かした商品開発と販路拡大に取り組みます。
- 地産地商の拠点整備による地域内経済循環の推進を図ります。

施策の目標

成果指標	現状値（H30）	目標値（R6）
農商工連携プロジェクトならびに市の補助金活用によって生み出された商品数	16 個	13 個
農商工連携協議会会員	75 事業者	75 事業者
国・県の6次産業化事業の採択件数	2 件	2 件



## 基本事業

地域資源を活かした産業の創出

### 新分野進出・新商品開発の支援

- |           |  |           |                            |
|-----------|--|-----------|----------------------------|
| <b>対象</b> | 市内の事業所（者）  | <b>意図</b> | 新分野に進出、または、新商品を開発できるようにする。 |
| <b>方針</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●セミナー等の研修機会の提供、市独自の補助制度の提供、国・県の支援制度の紹介及び事業計画の立案の支援を行います。</li> <li>●事業者と専門機関・アドバイザーとのマッチングや事業者間の連携を図り、売れる商品づくりを推進します。</li> </ul> |           |                            |

### 新商品の販路開拓支援

- |           |   |           |           |
|-----------|---|-----------|-----------|
| <b>対象</b> | 市内の事業所（者）   | <b>意図</b> | 新商品を販売する。 |
| <b>方針</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者と市の連携・協力のもと、積極的な情報発信を行うほか、販路開拓の支援に努めます。</li> <li>●ふるさと納税制度を活用して、商品の認知度向上を図り、販路拡大につなげます。</li> <li>●雲南市の食の魅力を発信する拠点施設を整備し、地域商品の販売促進を図ります。</li> </ul> |           |           |

## 役割分担

### 市民（住民、事業所、地域、団体）

- 地域資源を活かした新分野への進出や新商品の開発に取り組みます。
- 農業・商業・工業で連携した新分野への進出や新商品の開発に取り組みます。
- 市場ニーズを把握し、販路及び販売拡大に取り組みます。

### 行政（市、県、国）

- 新商品の開発、販路開拓及びマッチングを支援します。
- 農商工連携による取組を推進します。
- 新分野への進出や新商品開発のための情報提供や技術修得を支援します。

## これまでの振り返り総括

- 農商工連携協議会を中心に地域資源を活用した5つ（スパイス・スイーツの杜・たまご・さくら・山の幸）のプロジェクトを推進しています。
- 商品開発に関する市独自の補助金制度を活用した取組により、H27年度～H30年度において41個の新商品が開発されました。
- 商品の販路拡大に向け、商品力強化相談会・セミナー等の開催により、ふるさと納税返礼品の充実・魅力化を図りました。
- ギフト商品に関するセミナーの開催や展示会への出展支援など、地域資源を活かしたカタログギフトの作成に寄与しました。
- 地域内経済循環の拠点整備に向け「食の幸発信推進事業基本計画」を策定しました。

施策の目的

**対象** 市内の農家

**意図** 安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。

施策の基本方針

- 圃場、農道及び水路等の農業基盤の整備や農地保全を推進します。
- 農業・畜産の担い手育成とともに、組織化や農地集積による持続可能な農業経営の推進を図ります。
- 安全・安心な農畜産物の生産と水田園芸を推進します。
- 農畜産物の地産地消や市外への販路拡大を図ります。

施策の目標

成果指標	現状値 (H30)	目標値 (R6)
市内の農業所得総額 (法人除く)	▲ 5.4 億円	▲ 4.2 億円
J Aしまね販売額 (雲南市内)	23.2 億円	23.0 億円
雲南市の農業産出額 (推計)	50.8 億円 ◇現状値 (H 29)	50.0 億円



## 基本事業

農業の振興

### 農業基盤の整備・保全

- 対象** 担い手農家をはじめとする農家 **意図** 働きやすい環境で、農業の生産性が維持・向上する。
- 方針**
- 補助制度の活用や県営事業の導入などにより、圃場や農道・水路等の基盤整備に取り組むとともに、市単独事業によるきめ細やかな整備を図ります。
  - 農業機械の共同化・高性能化やスマート農業<sup>※51</sup>の導入による省力化に取り組みます。
  - 有害鳥獣被害防止対策に取り組みます。
  - 中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金制度により農地を保全します。

### 担い手の育成

- 対象** 農家・市民 **意図** 農業の担い手になる。
- 方針**
- 担い手支援室を中心に関係機関が連携して経営改善計画に基づく経営指導を行い、認定農業者を育成します。
  - 農地中間管理事業を活用した地域ぐるみの農地集積、農地利用の効率化、経営力の強化に努め、集落営農の組織化・法人化をより一層すすめます。
  - 就農希望のUターン者や新規就農者に対する支援を行い、担い手や農業後継者の確保を図ります。
  - 農業担い手連携組織の育成と地域自主組織との連携による地域農業の維持向上に努めます。

### 安全・安心で売れる農畜産物の生産

- 対象** 担い手農家をはじめとする農家 **意図** 安全・安心な農畜産物を生産する。
- 方針**
- ブランド米「プレミアムつや姫 たたら焔米」の生産拡大・認定率向上や市産米の品質向上に向けた取組を推進します。
  - 水田を活用して消費者が求める売れる園芸品目の生産を拡大します。
  - GAP(農業生産工程管理)に関する研修機会を設けます。
  - 畜産総合センターの機能を活かし、奥出雲和牛の肥育頭数の拡大及び肉質の向上に取り組むとともに、全国和牛能力共進会の取組強化による島根和牛の振興を図ります。

### 農畜産物の販売及び販路拡大

- 対象** 担い手農家をはじめとする農家 **意図** 販売額が増加する。
- 方針**
- 国内外でのPRイベントなどにJAと連携して取り組み、農畜産物・農産加工品の販売及び販路の拡大を図ります。
  - 産直や学校給食による農畜産物の地産地消をJAと連携して推進します。

## 役割分担

市民（住民、事業所、地域、団体）	行政（市、県、国）
<ul style="list-style-type: none"> <li>●安全・安心な農畜産物を生産します。</li> <li>●農業生産の効率化を図り、農作業の省力化・生産コストの削減に努めます。</li> <li>●消費者ニーズを把握し、農畜産物及び農産加工品の販売や販路の拡大に取り組みます。</li> <li>●集落営農組織や農業後継者の育成に努めます。</li> <li>●農業生産基盤や農業集落機能を維持保全します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業生産基盤の維持保全、整備を支援します。</li> <li>●安全・安心な農畜産物の生産、安定した農業経営と農業所得の向上を指導、支援します。</li> <li>●新規就農者、認定農業者、集落営農組織等の担い手育成を支援します。</li> <li>●担い手の広域連携を支援します。</li> </ul>

## これまでの振り返り総括

- 県営事業や団体営事業による圃場、農道及び水路等の基盤を整備するとともに、日本型直接支払制度等を推進し農地保全を図りました。
- 雲南市担い手育成支援室（ワンストップ窓口）を中心に関係機関が連携し、集落営農組織等や新規就農者へ支援を行い、H27年度以降新規の農事組合法人が6法人（H31年3月末現在 集落営農農業法人：24法人）、担い手の広域連携組織が3組織設立され、さらに新規就農者が3名誕生しました。
- 農業委員会制度の改正により、H29年から新たに37名の農地利用最適化推進委員の配置等の取組を行い、農地集積や遊休農地の発生防止を図りました。
- 市内産米の評価等を高めるため、H28年より新たなブランド米「プレミアムつや姫たたら焔米」の取組を開始し、H30年には栽培面積を約80haまで拡大を図るとともに、消費者に安全・安心で美味しい農産物の生産地であることをアピールし、販売拡大に努めました。
- 米の販路拡大のため台湾への米の輸出を継続して行いました。（吉田町の宇山と菅谷の米やたたら焔米・H30年：約7t輸出）
- 水稲育苗ハウスを活用したミニトマトや白ネギなど野菜生産の実証事業（H29年：4法人・H30年：2個人2組合）など園芸振興に取り組みました。
- 農産物の産直販売に引き続き取り組みましたが、産直会員数（H26年度1,573人→H30年度1,546人）及び市内産直市場販売額（H26年度 約412百万円→H30年度約347百万円）ともH26～27年度をピークに減少傾向で推移しました。
- 雲南市農商工連携協議会との連携により6次産業化をすすめました。
- 雲南市猟友会による有害鳥獣駆除班を編成し、有害鳥獣の駆除（H30年：総数2,384頭[内イノシシ1,886頭]）を行いました。加えて、電気牧柵やワイヤーメッシュの設置補助を行い、農作物の被害防除に努めました。
- 畜産農家の高齢化や後継者不足に加え、高止まりする飼料価格等に起因する経営圧迫により農家数は減少（繁殖和牛農家H26年：117戸→H30年：96戸）したものの、優良雌牛導入等の和牛振興に取り組み、多頭農家の頭数拡大などにより飼養頭数は増加しました。（繁殖雌牛H26年度483頭→H30年度525頭）
- 県内和牛市場の特徴を出すため、県有種雄牛の指定交配を条件とする保留・導入事業を継続実施しました。加えて、全国共進会に向け、受精卵移植事業等の取組を推進しました。

※51 スマート農業…ロボット技術やICT等の先端技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能にする新たな農業。

## 施策の目的

**対象** 市内の森林

**意図** 適正に森林を整備、保全し、森林資源を活用する。

## 施策の基本方針

- 新たな森林管理システムに取り組み、森林整備をすすめます。
- 林道、森林作業道等の路網整備を推進します。
- 市産木材の供給体制を確立するとともに、市産木材の利用促進に努めます。
- 未利用間伐材等を安定的に確保し、エネルギー利用の推進を図ります。

## 施策の目標

成果指標	現状値 (H30)	目標値 (R6)
森林組合の木材生産量	11,750m <sup>3</sup>	20,000m <sup>3</sup>
森林組合の施業面積 (間伐)	70.7ha	100.0ha
森林組合の施業面積 (新植)	18.8ha	60.0ha



## 基本事業

林業の振興

### 適正な森林管理

- 対象** 市内の森林 **意図** 適正に管理する。
- 方針**
- 森林の団地化と路網の整備を進めていくとともに、高性能林業機械を活用し施業の効率化を図ります。
  - 新たな森林管理システムの円滑な推進を図り、森林を適切に管理します。

### 担い手の育成・確保

- 対象** 林業事業者・市民 **意図** 林業の担い手になる。
- 方針**
- 森林整備に携わる事業者の担い手確保に向けた取組及び組織強化に向けて指導、助言を進めるほか、意欲と能力のある経営体の確保に取り組みます。
  - 技術講習会等を開催し、森林管理や森林資源の活用に向け市民参加の促進を図ります。

### 森林資源の活用

- 対象** 市内の森林 **意図** 資源として活用する。
- 方針**
- 木材流通拠点施設を核とした市産木材の流通の促進を図ります。
  - 公共建築物の市産材利用に関しガイドラインを定めて推進するとともに、住宅への市産材利用を促進します。
  - 森林バイオマス事業の円滑な運営を図ります。
  - 竹などの特用林産物の利活用を推進します。

## 役割分担

### 市民（住民、事業所、地域、団体）

- 森林を適正に保全します。
- 木材生産の効率性を高め、生産量の拡大に努めます。
- 住宅建設等での木材利用に努めます。

### 行政（市、県、国）

- 森林の保全管理を支援します。
- 木材生産の効率化と生産量の拡大を支援します。
- 公共事業等の木材利用に努めるとともに、市民の利用を促進します。
- 林業従事者の育成・確保を支援します。

## これまでの振り返り総括

- 森林組合等との連携のもと、公有林整備事業や公社造林事業などに取り組み、森林の適正な管理を行っています。
- 林道の管理や森林作業道等の路網整備に努めています。
- 搬出間伐等により木材生産量は大幅に増加しましたが、主伐による森林の更新はすすんでいません。
- 市民参加型収集運搬システム（登録者：H30年度末時点335名）や市内6施設への木質チップボイラーの導入により、森林資源を活用したエネルギーの地域内循環をすすめています。
- 市産木材の流通促進やチップ需要を考慮した原木の安定確保に向け、飯石ストックヤード（原木を自然乾燥するための一時保管場所）の整備をすすめています。
- 木材利用促進事業（補助金）を継続し、市産材の活用に努めています。
- 森林組合等が中心となって、特用林産物（椎茸、たけのこ、舞茸など）の生産に取り組んでいます。



施策の目的

対象

- A) 市外の人
- B) 市民

意図

- A) 市内で観光を楽しんでもらい、消費してもらう。
- B) 観光情報を発信する。

施策の基本方針

- 外国人観光客の受け入れ体制を強化し、関係機関との連携により魅力ある観光メニューの充実を図ります。
- 観光地の認知度を高めるとともに、地域資源を活かした観光商品の充実を図ります。
- 観光客への温かいおもてなしの心の醸成を図ります。
- 観光施設の老朽対策を計画的に推進します。

施策の目標

成果指標	現状値 (H30)	目標値 (R6)
観光入込客数	129.8 万人	138.0 万人
観光消費額	3,212 百万円	3,800 百万円



日本さくら名所100選認定「斐伊川堤防桜並木」



日本初之宮「須我神社」

## 基本事業

### 観光の振興

#### 観光情報の発信

- 対象** 市内外の人 **意図** 観光情報を得る。
- 方針**
- ホームページ、SNS、パンフレット、マスメディア等により、効果的な情報発信を行います。
  - 都市圏での観光宣伝や雲南市PR大使等による雲南ファン獲得を図ります。
  - 道の駅や市外観光関連施設を活用した情報発信をすすめます。

#### 観光資源の充実

- 対象** 観光客 **意図** 魅力ある観光商品を購入・消費する。
- 方針**
- 神話、たたら、遺跡、神社仏閣、桜、滝、蛭及びさくらおろち湖周辺などを活用した観光商品の充実を図ります。
  - 旅行事業者との連携を強化し、旅行商品化をすすめます。

#### 受け入れ体制の充実

- 対象** 観光客 **意図** 気持ち良く観光し、宿泊できる。
- 方針**
- 観光客に心温かいおもてなしのできる観光ガイドの養成及びスキルアップを図ります。
  - 来訪者に対するおもてなし力の向上を図るとともに、訪日外国人客の受け入れの充実に努めます。
  - 既存宿泊施設の利用向上に向け誘客強化に努めます。
  - 市民団体等による観光交流を支援します。

#### 受け入れ施設の充実

- 対象** 観光客 **意図** 観光施設を利用できる。
- 方針**
- 観光施設や宿泊施設の老朽対策を計画的に推進します。
  - Wi-Fiなどの通信環境やトイレ環境の整備に取り組みます。

## 役割分担

### 市民（住民、事業所、地域、団体）

- おもてなしの気持ちを持って観光客を迎えます。
- 観光資源の理解を深めます。
- 魅力ある観光関連商品の開発や情報発信に努めます。
- 観光協会や観光事業者等の連携強化に努めます。

### 行政（市、県、国）

- 雲南市の情報を発信します。
- 観光客の受け入れ環境を整備します。
- 魅力ある観光関連商品の開発を支援します。
- 関係団体や他圏域と連携し、広域的な観光振興を図ります。

## これまでの振り返り総括

- 宿泊観光の受け皿として、国民宿舎清嵐荘の改築整備に取り組みました（R1年11月から開業）。
- JR西日本による豪華寝台列車トワイライトエクスプレス「瑞風」の立ち寄り観光の開始（＝誘致）に伴い、旅行会社に積極的な情報発信を行うとともに、バスツアー運行の支援に取り組みました。
- 安来市・雲南市・奥出雲町による「鉄の道文化圏推進協議会」の取組により「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」の日本遺産認定（H28年4月25日）を受けました。認定後は日本遺産魅力発信推進事業に取り組み、たたら文化の魅力発信により観光入客の増加が図られました。
- 映画「たたら侍」支援自治体連絡会に参画し、映画製作・PRの支援を行いました。また「出雲たたら村」活用委員会に参画し、オープンセットを活用した出雲たたら村イベントの支援と、イベントを通じ雲南市の観光情報の発信を行いました。
- JR西日本などによる山陰デスティネーションキャンペーン（H29～H31年度）に合わせて、ガイドによる観光案内や観光ツアーのPRなどに取り組みました。
- 雲南広域連合や（一社）雲南市観光協会と連携し、（一社）山陰インバウンド機構の助言を得ながら、インバウンド対策の取り組みに着手しました。
- 雲南市PR大使制度の創設、広島圏域などでの観光宣伝事業及び観光ホームページによる情報発信を行っています。
- （一社）雲南市観光協会を設立（H27年4月）し、観光ガイドの育成・斡旋（H27年度：37件722人、H28年度：31件655人、H29年度：32件640人、H30年度：31件689人）、観光情報の発信、体験プログラム等の商品化など市内全体の観光プロモーションの強化を図りました。
- 桜の保護育成活動や尾原ダム周辺施設を活用したスポーツイベント（トレイルランニングレース、全国高校総体ボート競技）などに取り組み、交流人口の拡大が図られています。
- 観光地整備の一環として、しまねはじまりWi-Fiを5か所（雲南市観光協会、奥出雲葡萄園、稲わら工房、菅谷たたら山内、神楽の宿）整備しました。
- 観光施設付近（3か所）に洋式トイレを整備しました。

施策の目的

**対象** 商工業事業所（者）

**意図** 経営の安定・強化を図り、雇用を拡大する。

施策の基本方針

- 市内企業の人手不足の解消に向け、若い世代やUターン者に目を向けた人材の確保に取り組みます。
- 企業団地の計画的な整備により、雇用の拡大を図ります。
- 商工会との連携により、中心市街地をはじめとする地元購買の促進を図ります。
- 地域商業の活性化に向け、経営支援の強化や事業承継の支援に取り組みます。

施策の目標

成果指標	現状値（H30）	目標値（R6）
製造品出荷額	1,069 億円 ◇現状値（H 29）	1,200 億円
製造業従事者数	3,318 人	3,400 人
卸売業・小売業年間販売額	42,918 百万円 ◇現状値（H 28）	45,000 百万円
地元購買率	86.4%	88.0%



神原企業団地の整備



家族連れで賑わう「コトリエット」

## 基本事業

### 商工業の振興

#### 新たな雇用の場づくり

- 対象** 雲南市への進出に意欲のある企業及び市内事業所 **意図** 市内で事業拠点を新設・増設し、雇用を拡大する。
- 方針**
- 市内外への企業訪問による企業の意向確認、人脈及び包括協定の活用、関係機関との連携強化により、神原企業団地等への積極的な企業誘致をすすめます。
  - 空き家、空き店舗及び空き工場などの遊休施設を活用した企業誘致をすすめます。
  - 地場企業の設備投資の支援に努めます。
  - 市土地開発公社との連携により、計画的に企業団地整備をすすめます。

#### 地場企業の経営支援

- 対象** 市内事業所 **意図** 経営の安定・強化を図り、売上を伸ばす。
- 方針**
- 小規模・零細事業者を含む地場企業のニーズ把握に努めるとともに、独自の製品開発など新事業展開を支援します。
  - 地場企業の業況の把握に努めるとともに、市内企業間の取引マッチングを推進します。
  - 雲南市中心小企業振興基本条例に基づく地域経済振興会議の議論を継続的に行い、市民・事業者・行政が相互理解と信頼のもと、協働による取組を推進します。
  - 商業団体等と連携し、商業事業者への経営指導、経営支援、金融支援などの情報提供に努めます。
  - 関係機関と連携し、第3者承継を含む事業承継対策を推進します。

#### 地元購買の喚起と活性化

- 対象** 市内事業者 **意図** 売上を伸ばす。
- 方針**
- 雲南市中心市街地活性化基本計画を推進し、購買力流出の抑制や賑わい創出を図ります。
  - 地域商業の活性化に向け、空き店舗の活用促進を図るとともに、無店舗地区における移動販売支援などに取り組みます。
  - 地域内での経済循環を推進するため、市商工会との連携により地元事業者の認知度向上を図る取組をすすめます。

## 役割分担

市民（住民、事業所、地域、団体）	行政（市、県、国）
<ul style="list-style-type: none"> <li>●健全な経営と雇用確保に努めます。</li> <li>●環境に配慮した事業実施に努めます。</li> <li>●市場ニーズを把握し、新商品開発や販路拡大に取り組みます。</li> <li>●地元での購買に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所訪問などによる情報収集、情報提供を行います。</li> <li>●事業所が進出しやすい環境を整えるとともに積極的な誘致活動を行います。</li> <li>●事業者の経営支援（新商品開発・販路拡大・事業承継等）を行います。</li> <li>●地元購買を喚起します。</li> </ul>

## これまでの振り返り総括

- 積極的な企業誘致活動により、合併以来、新規企業立地11社が実現し、新たに210名の雇用が創出されました。また、投資固定資本総額は約18億円が見込まれています（企業立地計画数値）。
- 合併以降、新規企業立地11社を含む47件（新規雇用創出712名）の企業立地計画認定を行い、これによる投資固定資本総額は、約299億円が見込まれています。
- 産業集積拠点形成アクションプランに基づく神原企業団地整備事業に着手し、約2haの企業団地を整備しました。
- 南加茂企業団地との一体的な整備に向けたアクセス道路の整備に取り組みました。
- 雲南市企業間交流会（市内製造業40社が加入）を毎年開催し、研修会や情報交換等を通じて企業間連携を促進しています。
- 地域経済振興会議の下部組織として「経営支援・人材育成部会」、「商業観光情報発信部会」、「アイデア実践検討会」を設置し、分野ごとの課題解決に向けた検討を行っています。
- H28年11月に、中心市街地活性化基本計画（計画期間：H28年12月～R4年3月）の認定を受け、賑わい創出に向け、新たな商業拠点施設「コトリエット」を整備しました。
- 事業者の資金繰り対策として融資等に対する保証料の補助を行い、経営の安定に向けた支援を行っています。
- 商工会が実施するプレミアム商品券事業やスタンプラリー事業への補助を行い、地域経済の活性化、市内消費の喚起に努めています。
- 小売店等持続化支援（店舗改装・家賃助成等）、移動販売支援などの助成事業を行い、買い物支援や商業活性化に取り組んでいます。
- 事業承継専門員による訪問活動や関係機関との連携による個別相談・セミナーの開催に取り組んでいます。
- 老朽化した施設改修を行い、JR木次駅前のマルシェリーズショッピングセンターを再オープン（H28月3月）しました。

